

自己点検・評価について

自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	学内ポータルサイト[CCS]において、プログラムを構成する授業科目の履修・修得状況を管理するとともに、これらのデータは、数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会で共有し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。令和5年度から開始した本教育プログラムの履修状況としては、全学で300人が履修、256人が修了した。教育プログラムの対象科目を履修できる1年次の本教育プログラムの全体に対する修了率は、15.5%であった。 (参考) ＜情報処理リテラシー＞ 履修者数:1,652名、修得者数:1,581名 ＜データサイエンスリテラシー＞ 履修者数:300名、修得者数:256名
学修成果	本教育プログラム受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、学内ポータルサイト[CCS]で学生が授業に関する内容に、さらに興味・感心を持つようになったかや授業を通じて、新しい知識や技能を得たり、理解が深まったかを把握できる仕組みとなっている。令和5年度の結果では、興味関心に関する質問に対し、「情報処理リテラシー」は87.7%、「データサイエンスリテラシー」は72.4%の学生が興味を持ったと回答し、「理解・修得」に関する質問に対しては、「情報処理リテラシー」は95.9%、「データサイエンスリテラシー」は86.1%の学生が理解が高まったと回答している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラム受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、学内ポータルサイト[CCS]で学生の理解度を担当教員が把握できる仕組みとなっている。アンケート結果は数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会で共有し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。前項(学修成果)に記載のとおり「理解・修得」に関するアンケート結果から、多くの学生が理解が深まったと回答している。記述式のアンケートでも社会で役立つIT関連の知識、スキルを身につけられたなどの回答があり、授業内容を理解し、スキルを身につけられていることが分かる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業アンケートでは、授業に対する満足度を定量的に把握できる。また、記述式設問の「良かった点、評価できる点」等の回答でより具体的な意見を把握することができる。また、これら授業アンケートの結果は、常に全学生が閲覧可能な状態である。令和5年度のアンケート結果では、「総合的にみて、この授業の内容に満足しているか」の質問に対して、「情報処理リテラシー」は95.1%、「データサイエンスリテラシー」は78.6%の学生が満足していると回答していることから、後輩等他の学生への推奨度が高いことが分かる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	プログラムを構成する授業科目の履修・修得状況を数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会で共有し、履修・修得状況に問題がないか点検し、必要があれば改善していく。本学は、3月下旬(在学生)と4月上旬(新入生)に春学期と秋学期の1年分をまとめて履修登録の受け付けをしている。本教育プログラムの構成科目である「データサイエンスリテラシー」は秋学期に開講している科目だが、開講する約半年前の早期段階で履修登録人数を把握することができるため、履修状況を確認し履修者が少ない等問題があれば、9月下旬の秋学期履修登録変更期間までに履修者が増えるよう情報発信するなど対策を講じていく。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは令和5年度から開講しているため、プログラムを修了し、卒業した学生はいない状況であり、第1期生の卒業は令和8年度からとなる。今後に向けては、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況を把握するため、就職先企業に対して調査を実施、本教育プログラムを修了した卒業生の企業における活用状況や評価を把握する仕組みを数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会で検討していく。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	学内就職説明会で来学した企業やインターンシップの依頼がある企業に対してアンケートを実施し、本教育プログラムの内容・手法等への意見をキャリアセンターを通じて収集していく。また、自治体や企業に教育プログラムの講義内容及び実データを活用した演習等の協力を仰ぎ、社会でデータがどのようなデータがどんな分析をされ、実際に活用されているか具体的なイメージがつくように内容・手法の見直しを行っていく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		本教育プログラムでは、時事やトレンドなど社会での実例をもとにAI技術等がどのように活用されているかの紹介や実際に統計解析ソフトR、プログラミング言語Pythonを使ったデータ分析を実施する等、好奇心を高める授業内容としている。令和5年度のアンケート結果では、「教員は学生が授業内容に興味を持つように工夫していた。」の質問に対して、「情報処理リテラシー」は92.2%、「データサイエンスリテラシー」は71.7%の学生が興味を持つよう工夫されていたと回答している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること		毎年の学生アンケートの意見を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から授業の内容・実施方法の見直しを行っていく。令和5年度のアンケート結果では、「授業における適切な教材・資料の提示が理解を促した。」の質問に対して、「情報処理リテラシー」は88.7%、「データサイエンスリテラシー」は83.8%の学生が授業における適切な教材・資料の提示が理解を促したと回答している。また、記述式のアンケートでは、「先生の丁寧な指導や個別サポートのおかげで分かりやすかった(情報処理リテラシー)」、「PDFと動画が両方配布されており、じっくりと理解できた(データサイエンスリテラシー)」等の感想があった。